

2018年3月
(March)
第28号

フレンドシップス

FRIENDSHIPS



開会式場での奈良・西安チーム選手団

奈良市国際交流協会

ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長

奈良市長 仲川 げん



春暖の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、奈良市政ならびに国際交流事業に多大なるご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、日中国交正常化45周年を記念し、両国の友好都市、友好交流都市の地域間の友好関係とスポーツ界の相互交流の発展を促進し、とくに21世紀を担う青少年友好交流の輪を大きく広げることを目的として、「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」が開催されました。奈良市から出場した2名の代表選手も、この卓球大会を通して国境を越えた友情を育み、友好を深められたと思います。

奈良市内には毎年大勢の外国人観光客が訪れておりますが、日本語や日本文化を学びに来ている留学生を見受ける機会も増えたようにも思えます。2017年に国際交流基金が発表している海外における日本語学習者数は約370万人(2015年度)で、上位3か国は「1位:中国/約95万人」「2位:インドネシア/約75万人」「3位:韓国/約55万人」となっております。また、姉妹都市のキャンベラ市があるオーストラリアは、学習者数が約36万人、2012年度からの増加数は約6万人で世界1位となっております。初等・中等・高等教育機関や、民間の日本語学校、企業内研修など、海外では幅広く日本語教育が実施されていることから、これからの日本は、外国人観光客の増加に比例して、短期留学や交換留学などで訪れる外国人も増加すると思います。

2020年には東京オリンピックが開催されることから、今後一段と国際化が加速していく社会の中で、奈良市としては、多様な文化を理解し尊重し合える『国際文化観光都市』として、その名にふさわしい都市を目指し、世界との絆を育むことで、外国人観光客や海外からの留学生などにも優しく平和な町を築き上げていく所存でございます。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、これからも奈良市及び奈良市国際交流協会の発展のため、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご対応を祈念して挨拶とさせていただきます。

奈良市国際交流協会会員の皆様へ

奈良市国際交流協会

会長 辻井 昭雄



東大寺の修二会も終わり、古都奈良にも春が訪れ、桜を愛でる行楽シーズンの季節がやってまいりましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

ちょうど一年前の国際交流協会総会では、大阪大学の学生による公演で「日本とガーナ～ルーツを繋ぐ留学体験から感じたこと～」というテーマに題し、6ヶ月間の留学生活から学んだこと感じたことなどを語っていただきました。その中で

「Not Better, Not Worse, Just different／どちらが良いとか悪いとかではなく、ただ違うだけ。知らないのはお互いさま」

という言葉が出てきましたが、国際交流とは正にその通りであると私は思いました。国連が発表している世界人口は75億人以上となっておりますが、その数だけ個性や思想があり、それぞれの生活があります。私たちはマスメディアで取り上げられる情報だけを判断し、理解している気になっているのではないのでしょうか。そんな中、ガーナへ渡り地に足を着け、自身の目を見て、耳を傾け、肌で感じたこの学生の行動力に感動し、自身の経験を皆様の前で堂々と発表していた姿に感心させられました。

インターネットの発達で、パソコンをたたけば世界中の観光地や住宅地の路地裏まで、何でも検索でき画面で見ることさえもできる時代です。しかし、そんな時代だからこそ目で見て、聞いて、肌で感じて…実体験することの素晴らしさを今一度思い出さなければなりません。人と人との交流も、そこから始まります。これからの日本を担う子どもたちには、人と人との出会いを大切に、好奇心を絶やさぬよう、そして自らの手で全世界の扉を開け相手の心に飛び出して行き、高度な国際コミュニケーション能力や柔軟の思考力などを身につけ、自分らしさを力にして、日本そして世界に貢献してもらいたいと思います。

結びに、当協会から皆様へ配布いたしました意向調査アンケートへご返答いただきました内容を真摯に受け止め、さらなる躍進に繋がるよう一層励むとともに、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。

日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に出場

(2017年8月4日～8月6日)

日中国交正常化45周年の記念事業としての中学生卓球大会が平成29年8月4日～6日、北京市オリンピックセンター体育館に於いて役員・選手約600名の参加を得て盛大に開催されました。

両国の友好都市同士の中学生男女4人で編成した67チームの団体戦で、優勝を目指した熱戦と卓球を通じての親交を深めることができました。

奈良市代表の植原慎之助(伏見中)と堀井純花(都跡中)選手は、西安市代表選手と結束を強めて健闘しましたが、予選ブロックリーグ2勝2敗で3位となり、惜しくも決勝トーナメント進出は果たせませんでした。

24台設置の広い会場内では、対戦チームの指導者と選手が一体となって、激励や助言を送り、試合が終われば双方の監督と選手達が笑顔で握手を交わし、片言交じりの身振り手振りで意思の疎通を図るなど、なごやかな交流の様子が見られました。

この大会は、両国政府の後援のもとに、日本と中国の友好協会と卓球協会が主催し、国交正常化20周年となる平成4年に第1回大会が開催されて以来、5年毎に北京市へ友好都市が集まり、順次社会人、高校生、中学生の選抜チームによる卓球交歓大会として本年第6回目を迎えたものです。

中国選手の技術レベルは各年代に亘ってかなり高く、壁は厚いと言わざるを得ませんが、近年日本の若年層は、指導者の熱意と目標も高まり、次第に接近してきたと思われます。今回の中学生同士の対戦では約20%の勝率を挙げており、東京オリンピックへ向けて明るい話題となることでしょう。

また、以前の西安市の通訳と同様に、今回の奈良西安チームの通訳を務めてくれた大学院生は、日本文化や語学に優れた知識と人間性を備えていて、本年8月から1年間大阪大学への留学生に選ばれ来日するとのことでした。奈良での再会を約束して、ささやかな民間交流がさらに前進するものと期待しています。

〔寄稿者:団長(奈良市卓球協会会長)尼崎勝己〕



(男子シングルス)植原君のバックハンド攻撃



(女子シングルス)堀井さんのカットサービス



(ミックスダブルス)植原・王ペアーは接戦を展開

インドネシア伝統舞踊の会 ジャワ島&バリ島 IN NARA

(2017年7月29日)

2017年7月29日(土)、奈良市中部公民館において「インドネシア伝統舞踊の会」を開催しました。

来年2018年は日本とインドネシア国交樹立60周年の記念すべき年を迎えます。同時に「日本・インドネシア友好協会奈良」の設立30周年という年にも当たります。この節目となる年の一年前のプレ行事として、奈良の皆様へインドネシアという国について今まで以上に興味と関心を持っていただけたらという強い想いで本行事を計画しました。開催に当っては、奈良市当局および在大阪インドネシア共和国総領事館の力強い支援を得て、当日は、300名に近い方々に参集いただき盛大に開催することが出来ました。

また当日は、舞踊会に先立ち、津山恭之奈良市副市長とウイスヌ・エディ・プラティグニョインドネシア共和国総領事による挨拶並びに相互記念品交換等をはじめとする開会セレモニーを持たせていただきました。奈良市とインドネシア共和国との今後の友好親善の輪が一層深まっていくことを実感しました。

舞踊会を鑑賞された方々からは「華やかな民族衣装と優雅なジャワ島・バリ島の踊りに触れ、ひととき南国の島を旅した気分になることが出来ました」との感想が聞かれました。これを機に今後の両国の絆が一層深まる活動へ繋げていきたいと考えています。

〔寄稿者:日本・インドネシア友好協会奈良〕



黄金の羽根を広げて求愛する二羽の極楽鳥の踊り



竹で編んだ馬にまたがり舞うジャワの村祭りの踊り



ウイスヌ・エディ・プラティグニョ インドネシア総領事と津山恭之奈良市副市長との相互記念品贈呈



出演者全員

第36回奈良市文化祭 なら市民フェスティバル2017 タウンコンサート
2017年 日印友好交流年記念行事2017 The Year of Japan-India Friendly Exchanges

ユネスコ世界遺産「古都奈良の文化財」元興寺できく
『シタール、ターブラ演奏によるインド音楽の調べ』

10月1日曜日に、元興寺の禅室で、《ユネスコ世界遺産「古都奈良の文化財」元興寺できく『シタール、ターブラ演奏によるインド音楽の調べ』》を奈良日伊協会主催で開催しました。

当コンサートは、在大阪・神戸インド総領事館、イタリア文化会館・大阪と、ムーサ・インターナショナルによるオーガナイズ及び、サポートされた「第36回奈良市文化祭 なら市民フェスティバル2017タウンコンサート 日印友好交流年記念行事」として実施しました。

多数の応募者から約100人の皆様をご招待し、『インド音楽の調べコンサート』を楽しんでいただきました。

コンサートが始まる前に、在神戸・大阪インド総領事T.アムストロング チャングサン様、イタリア文化会館・大阪館長ステファノ・フォッサーティ様、元興寺住職 辻村泰善様のご挨拶をいただきました。

インド総領事T.アムストロング チャングサン様は、「日印友好交流記念行事として、インドと奈良そして、イタリアとの文化交流を国宝である美しい禅室で開催することができたことを喜び、誇りに思います。」と述べられました。辻村住職様は、「禅室は昔、若い僧侶達が勉学に励んだ夢と希望の溢れた場所です。この場所で、奈良とインドそして、イタリアとの文化交流コンサートを開催されることは、素晴らしいことです。」とお話しいただきました。

コンサートは、インド人シタール奏者ラフィーク・カーン氏と、イタリア人ターブラ奏者ベバ・フィオーレ氏の息の合ったエネルギッシュな演奏でした。

シタールのしっとりとした美しい響きとターブラの生き生きとしたリズムがとけあい、秋の光りが優しく差し込む禅室に、厳かに響きわたりました。奈良の秋の幻想的な一時を過ごすことができました。

「寄稿者:奈良日伊協会」



シタールとターブラの演奏



元興寺辻村住職による講話

日米ともだちコンサート奈良

(2017年4月14日～4月17日)

東日本大震災に際して災害支援に当たられた米国海軍第七艦隊に「感謝を表し、友情とつながり」を構築すべく第七艦隊音楽隊を奈良に招聘し追悼の意を表する為大仏殿にて奉納演奏を行い、金鐘ホールで文化交流の為の演奏会を開催しました。

奈良滞在中の主な訪問・慰問先は下記の通り。

- 4月14日(金) 奈良市長表敬訪問
東大寺福祉療育病院慰問
一条高等学校訪問(英語での交流)
東大寺学園中学校・高等学校で
合同演奏会
奈良県知事表敬訪問
- 4月15日(土) 一条高等学校で合同演奏会
天理大学と合同演奏会
- 4月16日(日) 奉納演奏 (東大寺・大仏殿)
日米ともだちコンサート奈良
(東大寺・金鐘ホール)
- 4月17日(月) 東大寺幼稚園訪問
(奈良での総演奏曲数120曲)



日米ともだちコンサート奈良 於:東大寺金鐘ホール

子供たちの笑顔と突然始まった大仏殿奉納演奏に皆さんに喜んで頂けました。

奈良市立一条高等学校では英語の授業の中に飛び込み、英語と楽器を交えて生徒との交流を図りました。翌日、同校吹奏楽部と合同演奏会を実施しました。生徒の笑顔がとても印象的でした。一曲でも多く、一人でも多くの人に音楽を届けたいという第七艦隊音楽隊員の気持ちは120曲にも及び皆さんの心に残った素晴らしい事業でした。

本事業の開催にあたり、紆余曲折2年越しの第七艦隊との交渉があり海に面していない奈良県で開催できたことは関係各位並びに第七艦隊司令官、第七艦隊音楽隊隊長のお蔭だと有難く感謝致しております。

本事業が継続できるよう誠意努力致します。

「寄稿者:奈良日米協会」



奈良市立一条高等学校(英語授業にて)



演奏中に観光客が飛び入りでダンスを始めました 奈良公園

平成29年度奈良市国際交流協会 総会 (2017年4月28日)

～総会では毎回国際交流にまつわる講演を実施しており、今回は『日本とガーナ～ルーツを繋ぐ留学体験から感じたこと～』をテーマに、大阪大学外国語学部アラビア語専攻の中村愛理さんにご講演いただきました。～

私はビタテ!留学JAPAN地域人材コース*に採用され、平成28年6月から、ガーナに6ヶ月間留学をしました。ガーナを選んだ理由は、父の故郷であるガーナについて深く知りたいと思っていたからです。また、大好きな奈良とガーナとの懸け橋になればと思い、「ルーツをつなぐ」というテーマで留学し、現地の旅行会社でインターンシップをしました。今まで、自分がガーナと日本人のハーフということで、日本で生きづらさを感じることがありました。ガーナに行けば、ガーナ人として認められると思っていましたが、決してそうではありませんでした。ただ、自分もガーナ人も楽しいことは楽しいし、悲しいことは悲しいと感じます。ガーナ人とも日本人とも違うかもしれないけれど、それが良いとか悪いとかではなく、ただ違うだけだと気づき、価値観が変わり、自分も皆も一人一人が地球人だと思えるようになりました。奈良は1300年の歴史があり、国際交流も盛んです。そんな奈良だからこそ、もっとグローバルな価値を認め合えるはず、国籍のカテゴリーにとらわれず「誰もが地球人」、こうした新しい価値観が広まればと思っています。

※文部科学省が取り組む、意欲と能力のある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成し、「グローバル」+「ローカル」=「グローバル」人材を育成することを目的として、官民協働で取り組む海外留学支援制度です。奈良市は、平成27年度に採択を受け、これまで多くの地域企業・団体から協賛を受けながら、13人へ支援を行い、奈良から世界にはばたく学生を応援しています。



ガーナのインターンシップ先の旅行会社の皆と



平成29年度国際交流協会総会での発表

第五回珠光茶会～外国人向けお茶会体験～ (2018年2月11日)

2月6日から11日までの間、奈良市内のお寺や神社などで大茶会“珠光茶会”が今年も開催されました。また国籍や宗教、言語などが異なる外国人がお茶室に集い、一服の抹茶を召し上がりながら一期一会を楽しんでいただくために、最終日には外国人向けお茶会体験が、奈良町にぎわいの家でも実施されました。

奈良市内外在住の留学生や外国人観光客、そして日本人観光客も集まり、裏千家奈良支部の先生から基本的な作法などを習い、お茶を味わいました。また、同時に生菓子作りの実演や大和茶の試飲も行われました。参加者の皆様は、お香の香りや湯の沸く音なども感じながら、茶の湯の雰囲気を楽しんでいました。

スリランカ人男性は、「スリランカにもお茶はありますが、日本のお茶は本当においしかったし、楽しかったです」と話していました。また、ウクライナ人女性は、「とても興味深いですね。新しい体験が出来ました。美味しかったです」と話していました。



手作りの生菓子をいただく外国人の皆様